

YGD / 越後薬草蒸留所

敷地は多雪地域に指定される新潟県上越市。

水路や緑地が一体的に計画された自然豊かで閑静な住宅地のエッジにある。

クライアント企業はこの土地に1980年に本社工場を移転し、野草酵素の研究を継続酵素食品の製造を手がけてきた。その隣地に、酵素食品製造の発酵過程で発生するアルコールを利用した、

クラフトジン"YASO"の製造することとなり、蒸留所新築プロジェクトがスタートした。

建築は蒸留所となるグランドレベルと回廊ギャラリーの2FをRC造とし、その上にS造のトッブルーフを架け3Fを作り、そこに多目的に活用出来るラボを配置する、混構造3階建てとした。

土に根ざしたグランドレベルと山並みや空に開けた上階、それらの間で繰り返される移動の中で、より遠くを、そしてより近くを意識化することができ、

まさに自分自身がその間にありその一部であるということを知覚する。全身的に地球との繋がりを強烈に感じることができる、そんな蒸留所を目指した。



前面道路から夕景の建物外観を見る



敷地一杯の段丘と小径からなる庭が蒸留所内にも広がる

蒸留工場のあるグランドレベルから2Fの回廊ギャラリー、3Fまで見通す

2F回廊ギャラリーを見渡す



回廊ギャラリーから1,2,3Fを見渡す

天井に映り込む風景と自分が混ざり合い、あたかも水中に、まさにジンに没入する感覚を提案した

3Fラボスペースを見る

庭と一体につながる蒸留所の、グランドレベルから2Fへと抜ける吹抜けの中心に大きな蒸留器を配置し、2Fには壁面に絵画が飾られた回廊を設えた。回廊からは中心の蒸留器と、クラフトジンの製造過程全体をのぞむことができる。またこの回廊は建物4面の面外方向の応力を支持する役割も担う。

そしてさらに階段を登ると、360°に視界が開け、名峰米山から、妙高山までを見渡すことのできる3Fのラボスペースへと繋がる。3Fの床を支持する外周梁を逆梁としそれを花壇として活用。逆梁により深く支持することで屋根を支える鉄骨柱を90mm角とすることができます、華奢なプロポーションを実現している。天井には歪ませた鏡面ステンレスを貼り仕上げた。そこへ映り込む、段丘や小径の庭、遠くの夕焼けや山並みは、屋内と屋外を繋ぎ、遠くと近くを繋ぎ、グランドレベルと3Fを近くに繋ぐ。

また歪ませた鏡面ステンレスは水面を想わせ、そこに映り込む風景と自分が混ざり合い、あたかも水中に、まさにジンに没入する感覚を生む。

素材もまたこの土地に根差し、グランドレベルの床や段丘の仕上げにはこの土地の土を混ぜ、バーカウンターにはこの土地の山、川、海で採れた石を使ったテラゾー仕上げとした。8.5mのロングカウンターの山側には妙高山の石を、中心部には関川の石を、海側には直江津海岸の石を採用することでカウンターテーブルそのものを、この土地の風景の縮図となるようなひとつの庭として設えている。

コンクリート型枠には上越の杉材を採用し、この土地の気候や時間により出来た固有の木目をコンクリート外壁に転写した。その同じ杉材を隣接する機械室の外壁としても採用することで、杉材のネガとポジが並ぶ新しい杉景色を作った。

